一般質問

主な質問と答弁

下水道施設の災害対策

計画的にインフラ整備を
被害を抑え、素早い復旧を目指す

安田 景輔
民主クラブ

質問　辻堂浄化センター、大清水浄化センターの災害整備計画を聞きたい。

答弁　辻堂浄化センターの耐津波化、耐震化において最低限確保すべき機能である揚水機能、消毒機能が確保される時期は、令和11年度を目標に進める。

　大清水浄化センターの浸水対策は、今後10年の計画として位置づけている中期経営計画期間内に完了予定である。耐震対策に関し、揚水機能は計画期間内に完了する予定だが、消毒機能は建物建て替えが必要なため、計画期間内に下水道全体の再構築検討で決定する。

質問　下水道管路施設の被害把握、早期復旧体制構築はどの程度進んでいるのか聞きたい。

答弁　被災時における管路施設の復旧に向け、下水道台帳の電子化は完了している。被害把握や復旧体制の構築についての指揮命令系統や活動フローの手順は、業務継続計画で定めている。初動体制の確保に向けては、他自治体などからの受援による復旧体制の構築も行っている。

西川 誠志
湘南
維新の会

公民連携窓口の設置
財政改善のため検討を

質問　市の公民連携を推進する方針について聞きたい。

答弁　市政運営の総合的な指針において、全ての事業実施に当たって留意すべき共通の考え方として、マルチパートナーシップの推進を示している。

　この方針に基づく取組として、公共資産パートナーシップ提案制度やトライアル・サウンディングによる将来の活用に向けた可能性調査などを実施している。

質問　常時設置型の公民連携窓口は本市の市民サービスを充実させ、経常収支比率をよりよくしていくために設置が必要な部署と考えるが、市の見解を聞きたい。

答弁　他の自治体においても、共創や公民連携というネーミングのもとで、公民連携窓口を設置している例は増えていると認識している。

　このような状況を踏まえ、先進自治体へ視察を行うなど、人員体制、人材育成策、提案募集方法や庁内外への普及啓発策といった、共創が起き続けるために必要な事項について検討を開始している。

山口 政哉
市民クラブ
藤沢

江の島周辺の交通課題
事業者と連携し取組を

質問　江の島周辺で無料シャトルバスの実証運行をしているが、今後の展開について見解を聞きたい。

答弁　定期運行に当たっては、利用者のニーズが高く収益が見込めるルートとする必要がある。そのためには乗降場所の拡充や、様々な法規制の課題がある。しかし、この定期運行が実現すれば、観光客にとって利便性や回遊性は格段に向上し、経済活性化も期待できる。

　アンケート調査や費用対効果等の検証を進めることが重要であり、湘南藤沢活性化コンソーシアム内で得たデータを共有し、今後に向けた研究を進めていく。

質問　旧かながわ女性センター跡地は、交通の要衝としての機能の観点だけでなく、地域と一体となり利活用を考えるべきだが、市の見解を聞きたい。

答弁　県の動向を注視しているが、地域住民や関係団体等の意向の把握に努め、マルチパートナーシップを推進し、地域と共に課題解決や、観光振興につながるよう主体的に取り組む。

原田　建
アクティブ
藤沢

ケアラー支援条例
公的支援無いなら不要

質問　緊急通報システムは高齢者等の安否確認において、民間警備員から119番通報による救急車の出動となり、福祉案件の発見・対応にならない。地域包括支援センターも土日、夜間対応がないため家族介護者支援は困難ではないか。

答弁　家族介護者を取り巻く課題が多様化する中で、地域包括支援センターだけで状況に応じた支援に取り組むには限界があり、支援が必要な家族介護者の発見や支援を地域の関係者と分担・連携していくことが極めて重要になると考える。

質問　家族介護者につながるには地域が重要である。児童虐待予防等、子育て家庭も児童相談所の前に地域の受け皿づくりが必要と考えるが市の見解を聞きたい。

答弁　児童虐待は許されないが、追い込まれてしまった背景を理解し、保護者に寄り添うことは大切である。

　養育環境に課題のある子どもを対象に、安心して過ごす場の提供や、学習支援などの地域資源の活用に努めているところである。

佐野　洋
自由民主
無所属の会

BRTの機能強化
鉄道延伸の需要創出を

質問　健康と文化の森地区では、連節バスを用いたBRT（※1）が運行されているが、現状の輸送力では足りなくなると危惧する。いずみ野線延伸実現までの間、高倉遠藤線の4車線化を行い、BRTの強化を図るべきと考えるが、市の考えを聞きたい。

答弁　湘南台駅周辺と健康と文化の森地区を結ぶ東西方向の交通は、寒川町倉見地区に計画されている新幹線新駅にネットワークする広域的な機能を担うため、高倉遠藤線の4車線化と、いずみ野線延伸という交通軸の形成は、本市の将来にわたる健全な発展には必要と考える。

　鉄道延伸の実現には時間を要するものの、その実現までの間においても、現行のBRTの輸送力の増強が求められるとともに、その機能強化は、進行中のまちづくりの成熟度を高め、鉄道延伸の需要創出につながるものと考える。引き続き、高倉遠藤線の4車線化に向けて県との調整を進めるとともに、更なるBRTの機能強化を検討していく。

辻堂湘南台間の交通環境

将来的なＬＲＴ導入
まちの活性化に寄与する

有賀 正義
Vision
ふじさわ

質問　辻堂と湘南台を結ぶ形でのLRT（※2）の導入は、藤沢市の交通体系の中で周辺のまちの活性化に大きく寄与するものと考えるが、将来を見据えた市の考えを聞きたい。

答弁　湘南台を起点とする東西軸は、いずみ野線延伸の実現に向けた検討会の取りまとめにおいて、LRTと鉄道との比較を行い、速達性や広域アクセス性に優れる鉄道を選定した。

　辻堂駅を起点とする南北軸は、地域の特性や移動ニーズを考慮し、バスの利便性の向上につながる取組として、これまでBRTを導入して輸送力の増強に努めてきた。LRTの導入は、自動車交通に与える影響や鉄道より安価であるが多額の費用がかかること、BRTの輸送力と大きな違いがないことが課題である。将来的な南北軸は、道路交通量、移動需要、費用対効果などを踏まえ、既存のBRTの機能強化やLRTの導入などの、様々な選択肢を考慮し、総合的に検討するものと考えている。

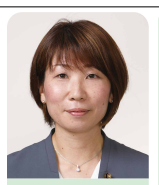
西　智
市民クラブ
藤沢

東京デフリンピック
ホストタウンの取組を

質問　デフリンピックが、2025年に東京で開催される。デフスポーツへの関心が高まるとともに、聴覚障害者の意思疎通には欠かせない手話を知ってもらう機会としても期待される。デフリンピックにより、聴覚障害、手話への理解が深まることで、多様性のある社会、共生社会をつくり上げていく契機になると考える。

　本市がデフリンピックのホストタウンとして名乗りを上げることは大変意味のあることだと考える。市の考え、意気込みを聞きたい。

答弁　ホストタウンとして名乗りを上げることについては、練習場所や宿泊先の確保など、市が主体的に県や関係団体に対して働きかけ、時期が来たら受入れの意向を示していきたいと考えている。そして、ボランティアをはじめ多様な人々の参画によって大会の認知度向上と機運の醸成を図り、オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとしてつないでいく。



神尾 江里
民主クラブ

尊厳ある在宅療養
医療と介護の連携

質問　転院退院相談・支援に関し、市民病院の取組と課題について聞きたい。

答弁　転院調整は、市内の15の医療機関をクラウド上の転院調整システムを通じてネットワーク化を図り、各病院の空床情報や転院を希望する患者の情報を電子化し、他の医療機関と共有できるようにした。これにより、患者のニーズに合わせた、よりタイムリーな転院調整が可能となった。

　今後は、加入する医療機関を増やしていくこと、湘南東部二次保健医療圏外との連携が課題となっており、機能の異なる多くの医療機関や看護・介護・福祉・行政分野との連携強化が望まれていると認識している。

質問　要介護状態となった場合の在宅での生活について、市民の不安解消に向けた取組を聞きたい。

答弁　ホームページや広報周知、市民公開講座などを実施している。市民の不安解消につながるよう、アドバンス・ケア・プランニング（※3）普及に取り組む。

今井 みきこ
藤沢市
公明党

高齢者の終活支援
充実に向け対応を

質問　市民が亡くなった後の遺族の手続き・相談の窓口対応について、今後に向けての取組状況を聞きたい。

答弁　死亡届受付の際に、遺族が行う手続きをわかりやすく案内している藤沢市おくやみガイドブックを渡している。

　市では、遺族の気持ちに寄り添いながら必要な手続きを案内したいと考えており、おくやみガイドブック作成と併せ、遺族が行う手続きの手伝いをするための窓口の検討を進めている。

質問　一人暮らし高齢者が生前にできる権利擁護支援の必要性を強く感じるが、市の考えを聞きたい。

答弁　高齢者の新たな権利擁護支援策として、事前に親族や資産等に関する情報を市に登録し、支援関係機関と協力しながら、もしものときの速やかな支援を行うとともに、定例的な訪問や声掛けを行うことなどを検討している。高齢者が安心して暮らし続けられるよう、新たな支援策の実施に向けて取り組んでいく。

土屋 俊則
日本共産党
藤沢市議会
議員団

国民健康保険料
引き下げ負荷軽減を

質問　全国では、国民健康保険料を滞納せざるを得なくなった人に対する強権的な差し押さえが問題となっている。機械的な差し押さえはやめるべきと考えるが市の見解を聞きたい。

答弁　保険料滞納が生じた場合、滞納者と早期折衝を図るとともに、その理由を把握するよう努めている。財産調査の結果、資力がありながら納付意思が見られない場合、やむを得ず差し押さえる等の処分を行い滞納の早期解消に努めている。

　納付できない特別な事情があると判断した場合、被保険者に寄り添った丁寧な対応を行っている。

質問　住民の暮らしを守るため、保険料を引き下げ、払える保険料にすべきと考えるが、見解を聞きたい。

答弁　これまで、前年度からの繰越金の多くを保険料賦課総額に充てるなど、保険料水準抑制を図ってきた。市では将来にわたり健全な保険制度を維持するため、引き続き、保険料率の適正な設定に努めていく。

栗原 貴司
市民クラブ
藤沢

ワンストップ部署設立
市民サービス向上を

質問　沿岸地域を住みやすく、仕事、生活をしやすくしていく事が、市が選ばれ・発展していく事につながると考える。さらに多面的な価値を統括し、相乗効果を持たせた施策展開を図るため、そして市民サービスの向上のために組織改正で海に関してワンストップで施策展開できる専門部署を設けるべきと考えるが、市の見解を聞きたい。

答弁　津波対策などを進めることでまずは安全安心を確保し、沿岸部の住みやすさ、働きやすさを高めることが、地域社会や経済発展に不可欠であると考える。

　市ではこれまでの組織改正において、市民サービスの質的・量的変化や新たな行政需要に対応するため、効果的・効率的な組織体制の構築を図ってきた。

　今後の組織改正に際しても多様な施策を展開するに当たり、総括的な部署を設けるメリット・デメリットを勘案しながら、実効性のある組織の在り方について検討を行っていく。

（※1）BRT…Bus Rapid Transit の略で走行空間、車両、運行管理等に様々な工夫を施すことにより、速達性、定時制、輸送力について、従来のバスよりも高度な性能を発揮し、利用者に高い利便性を提供する次世代のバスシステム。
（※2）LRT…Light Rail Transit の略で低床式車両の活用や軌道・乗降の改良による容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する軌道系交通システム。
（※3）アドバンス・ケア・プランニング…将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、その家族や近しい人、医療・ケアチームが繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取組。